

幼子とともに

12月号

はじめに

二学期の最終月となりました。あっという間の二学期ではありましたが、皆様のご理解とご協力により、幼稚園での教育活動が円滑に行えたことを、改めて、深く御礼申し上げます。いよいよ、三学期を目前としていますが、三学期は、二学期よりも更にハイスピードで過ぎていくことでありましょう。しかし、一日一日を大切に、一人ひとりの成長と発達に寄り添いながら、より丁寧に保育をしてまいりたいと思います。

クリスマスページェントに思いを馳せて

越谷幼稚園では、12月にページェント（聖誕劇）を行います。イエス様がお生まれになった喜びを劇という形を通して（自分自身が物語の中に入って）味わう大切な日です。

子どもたちからも「どっちする？天使？宿屋？」という声が聞こえてきます。ページェントは、いわゆる生活発表会とは違います。これは「礼拝」です。ですから、越谷幼稚園では、ページェントの「練習」とは呼ばず、それも一つの「礼拝」であるという意識を保育者が大切にしています。

そもそも、クリスマスという言葉は、「キリスト」と「ミサ」（礼拝）が組み合わされた用語でありますから、クリスマスに関わる全てが「礼拝」に向かっているという意識は、間違えではないと言えるのです。



「礼拝」とは、ある意味で、神様に対する「奉仕」でもあります。そして、その奉仕とは、全ての人が、神様によって必要とされていることを意味しています。ですから、ページェントにおいても、全ての子どもたちが、必要とされた存在であるという視点を大切にしたいと思うのです。どの役が良いとか悪いとかを決めるのではなく、どの役もかけてしまえば尊い奉仕は完成しないのだ、ということを伝えながら、子どもたちの存在そのものを受け止めていく保育へとつなげていければと願っています。

お話大好き(^v^)/

ある日、園長が、バスに乗って、子どもたちを迎えに行った時のお話です。三人の年少さんたちが、一列に並んで座って、何やら面白いお話をしていました。

A君「恐竜を見に行ったんだよ！」

B君「そうなんだ。強い恐竜何か知っている？」

C君「知っているよー！トリケラトプス！！」

A君「僕も知っているよ！僕にも話させて！えーと強いのは・・・トリケラトプス！」

園長心の声「同じやないかいー！」

B君「僕だって知っているよ。僕も話したい！一番強いのは・・・トリケラトプス」

園長心の声「同じやん！」

C君「次、僕がお話するー。ちょっと静かにしてよ」

A君「じゃあ順番で話そうよ。次はB君！」

B君「うちの車は、『自動車メーカー名』だよ！」

C君「うちは『自動車メーカー名』さ！」

A君「やっぱりさー！一番強いのは、トリケラトプスだよ」B君・C君「だよー」

園長心の声「・・・・トリケラトプス言いたいだけやん」(笑)

私の勝手な印象ではありますが、子ども達は、恐らく、「お話することそのもの」を楽しんでいるようでした。言語能力やコミュニケーション能力がまだまだ未発達の部分も多い幼少期ではありますが、まずは、「声を出すことが楽しい」「お話することが楽しい」という気持ちを大切にしていきたいと思います。そのためには、子どもたちが発する一つ一つの言葉を、しっかりと聞いてくれる存在が必要なのかもしれません。「子どものアドボカシー」（子どもの声）という言葉が再度、流行しそうな今、たとえば、辻褄が合わなくても、たとえば、言語に遅れが見られたとしても、たとえば、言葉にならない声だけのものであったとしても、自分の言葉に耳を傾けてくれる大人がいることで、子どもたちは、自分の意見を安心して、しっかりと話したくなるのだと思うのです。

園長 須賀 工

栄養士だより

《30回噛みましょう》

「ありがとうございます」この言葉を3回繰り返しながら、噛むと30回噛むことになります。みなさんは、1回の食事でどれくらい噛んで食べていますか？以前と比べ、噛む回数が減っていると言われるかもしれませんが、乳幼児期は、咀嚼の機能を育てる大切な時期です。その大切さを知り、よく噛んで食べる習慣をつけられると良いですね。

①消化を助ける。

よく噛み、唾液と混ぜ合わせて飲み込むため、胃や腸での消化・吸収がよくなります。

②脳の働きをよくする。

しっかり噛むと、頭に血管や神経が刺激され、脳の働きが活発になります。

③虫歯を防ぐ。

唾液分泌が高まり、唾液の働きで虫歯菌が発生しにくくなります。

④肥満を防ぐ。

よく噛み、ゆっくり食べるので適量で満腹感を得ることができ、食べすぎを防げます。

⑤味覚の発達。

食べ物をしっかり味わうことにより、味覚も発達します。

忙しい12月ですが、楽しくお食事を楽しんでくださいね。

いけだかずみ